令和元（2019）年度 事業報告書
NPO 法人森からつづく道

Ⅰ．概要

活動の柱と位置付ける「オオキトンボの里づくりプロジェクト」（地球環境基金）は、本年度が3年計画の最終年度となり、3年間の調査報告書概要版をまとめ、総括を行った。その結果、田村池における2018年・2019年の発生急減については、ため池の貯水開始の遅れが主要な要因の一つと推察された。そこで、田村池管理者に貯水を3月中に開始するよう協力を依頼したところ、本年は昨年よりため池の水位上昇が早まっており、成虫の発生増加につながれば、大きな成果となる。

本年度は、ため池で希少生物の保全に取り組んでいる「ニッポンバラタナゴ高安研究会」（大阪府八尾市）を視察した。保全には多面的な展開が重要であるとの学びを基に、本プロジェクトをさらに発展させた事業を構想し、2020年度の地球環境基金「ひろげる助成」に申請、採択された（2020～2022年度、単年度審査）。

オオキトンボの保全のためには、ため池管理者や地域住民の理解と協力が不可欠であることから、地域との関係づくりとともに、本種保全のための啓発活動を継続している。本年度は、プロジェクトの発信と他地域の保全活動からヒントを得ることを目的に、「風早トンボサミット2019」を実施した。また、田村池に近い河野小学校において、3年生を対象に本種についての授業を展開しているが、2018年度に続き、本種について学んだことを3年生が学習発表会で発表するなど、地域の特色ある学習として定着しつつある。

以上のような活動の結果として、北条地域において、本種の存在と当団体の保全活動が認知されてきたことを実感している。

サイエンスカフェは通常の「サイエンスカフェえひめ」を3回実施し、「スーパーサイエンスカフェ」を四国の地質と奥山の哺乳類をテーマに2回実施した。また四国生物多様性会議を開催し、国際自然保護連合日本委員会による2020年までの愛知目標の進捗についての講演、四国四県の多様な主体から地域の自然の保全と活用について事例報告をいただき、四国の生物多様性の魅力と課題について共有する機会を提供した。

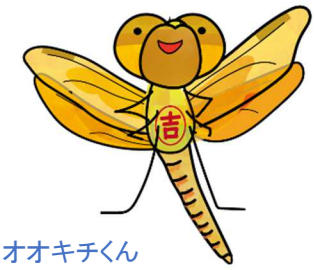
本年度は新たな取組として、「道の駅から広がるエコツアー」を県内の中山間地3ヶ所で実施した。道の駅は近隣の生産者が自ら農林水産物やその加工品を持ち込み、それを都市住民が買い求めるという地域循環の好例である。このツアーでは買い手と作り手の接点を作るとともに、参加者が里地の生物多様性の恵みを体感することを目的とした。

東予地域で開催された「えひめさんさん物語」の一環として、西条市の山、文化、歴史、産業、自然に深く踏み込んで行う自然・文化観察プログラムを6回シリーズで企画・運営した。「うちぬき」や史跡など、知名度はあっても実はその魅力が充分には知られていない地域資源を専門家の解説付きで散策するツアーとなり、毎回定員を上回る申込みがあるなど好評を得た。

本年度は県内各地でのエコツアーや観察会の取組が充実し、地域資源に目を向け、地元の方々との協力関係を進展させてきた。また、スーパーサイエンスカフェ、四国生物多様性会議の開催に加え、環境省地域循環共生圏構想の活動にも参加し、四国におけるネットワークも視野に、愛媛県における生物多様性や地域循環共生圏の推進の役割を担えるよう、取組を展開していきたい。

組織としては、NPO法人登記が6月に完了し、本年度は法人としての第1期となった。

【運営した事業】
1 オオキトンボの里づくりプロジェクト
2 サイエンスカフェえひめ
3 スーパーサイエンスカフェ＆四国生物多様性会議
4 道の駅から広がるエコツアー
5 親水都市アクアトピアわくわく水エコツアー　えひめさんさん物語
6 風早活性化協議会事業への参加・協力
7 地域循環共生圏事業



オオキチくん

1. オオキトンボの里づくりプロジェクト

オオキトンボ（*Sympetrum uniforme*）は全国的に急減しており、環境省レッドリストでは絶滅危惧ＩＢ類となっている。松山市北条地域は全国で最も発生個体数が多いといわれているが、平地のため池に依存する種であり、住民の営農と水管理、ため池の改修に大きく左右される状態である。本種が生息できる環境が適正な営農によって保全され、将来にわたって安定的に生息することを目的に、地球環境事業基金の助成を受け、H29～31年度の3年計画で活動を展開。本年度は最終年度となったため、農業従事者への提言を取りまとめた。

【活動1】 オオキトンボの生活史・生息に資する環境を明らかにする調査

(1)現地調査・結果集約

本種発生のコアで経年調査を行うM池・N池における生息状況の把握を中心に、①羽化殻採取・分類・カウント、②成熟個体数調査、③避暑地調査、④ねぐら調査、⑤在不在調査、⑥標識調査を実施。調査はのべ50日、のべ98人が実施した。前年度調査71日に比べて調査日数が減少したのは、M池・N池における本種の発生が前年比2割程度と少なかったためである。

羽化のシーズン(5月下旬～9月上旬)には毎週水曜日にトンボの羽化殻を採取し、発生数とピークを調査しました。

(2)ため池管理者へのヒアリング

本種の発生が多かった2017年に比べ、2018・2019年は激減しているため、M池の水管理にどのような変化があったのかについて、区長および水管理担当者にヒアリングを行った。

(3)調査報告書の作成

現地調査の結果および考察を2019年度調査報告書にまとめて製本した。

羽化のピークとなる、7月15日にため池で観察会を実施しました。残念ながら本年のオオキトンボ発生数は大幅減。。

【活動2】 トンボ類の調査・観察会を担う人材育成

(1)地元での研修・フィールドワーク

7/15に、公益社団法人トンボと自然を考える会の杉村光俊氏を講師に招聘し、M池においてトンボの観察・解説を行うとともに、「トンボで守る『食』の安全」をテーマに、トンボが必要とする環境と農業や人の暮らしとの関連について講演を得た。高校生4人、ため池管理者3人を含む35人の参加があった。

【活動3】 地域住民による保全の機運醸成

(1)オオキトンボ観察会の実施

7/15にM池において観察会を行い、高校生4人、ため池管理者3人を含む地元住民を中心とする35人の参加を得た。本年は本種の発生が前年比2割程度と少なかったため、活動2の人材育成と併催した。

(2)河野小学校の授業

3年生児童(約40人)を対象に、総合学習の時間を通してオオキトンボについての授業を行った。7/3:本種幼虫の飼育・観察、後日羽化後の個体の観察・リリース、10/17:M池で産卵の観察、教室で生活史と環境の解説を行った。11/10の学習発表会では2018年度に続き、3年生が本種の学習をテーマに、本種の生活史とともに、生育に必要な環境がため池管理と農業によって創出されていることを発表した。

「日本のトンボ・松山のトンボ」
昆虫・自然写真家の尾園暁氏の講演

(3)第2回「風早トンボサミット！」開催
10/5に実施し、全体で56人の参加を得た。午前中にM池において本種の産卵を観察、午後に「日本のトンボ・松山のトンボ」のタイトルで昆虫・自然写真家の尾園暁氏の講演、トンボの保全と観察機会の提供に関する事例発表2件を実施した。さらに、本プロジェクトによる調査結果の報告と保全活動の概要を報告し、地域におけるトンボの保全体制などについて、ディスカッションを行った。

北条児童センター「風早生きもんくらぶ」
秋の田んぼ周辺での観察会

(4)学習会等の開催
8/4、愛媛県による高校生生物多様性チャレンジシップのフィールドワークと生態系に関する学習会を、本種および里地の生物多様性生をテーマに実施し、県内5校、県外3校の生徒30名、教諭8名の参加を得た。
11/4「風早にぎわいレトロまつり」に参加し、本種の生活史のポスター、活動紹介動画の展示、自然素材を使ったクラフトや生き物ジオラマ作りを実施した。クラフトはのべ200セットを準備したが、すべて終了するほど好評で、本種の認知度向上に寄与した。

(5)北条児童センターで「生きもんくらぶ」実施
北条児童センターの活動に位置付け、「風早生きもんくらぶ」を実施。7/30「田んぼの生き物を知ろう」(小学生・未就学児23人と保護者7人)、10/19「トンボの産卵と秋の田んぼの生きもの観察会」(小学生・未就学児14人と保護者7人)を実施、観察後に生き物下敷きを活用して振り返りを行った。

(6)「オオキチくん通信」の作成・発信
年間10回、各2000部を発行。北条地域7小学校の3年生以上の児童に配布、公民館等に設置した。

【活動4】 ため池管理ノウハウの共有

(1)ため池管理者との関係づくり
6/2、M池の草刈り・水管理の作業に3人が参加した。調査中にため池利用・管理者と情報交換を重ね、話しやすい関係が進んだ。

(2)先進地視察
7/26～27、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(大阪府八尾市)を当団体スタッフ3人が訪問し、フィールドの案内・活動の説明を受けた。ため池管理や森林整備などフィールド保全の活動に加え、農産物のブランド化や多様なスキルを持っている人との関係づくりなど、参考になる情報をた。

(3)ため池改修情報収集
県農地整備課から、希少種の生息が確認されているため池の改修工法と施工後のモニタリングに関する3件の情報を得た。

(4)住民とため池管理ノウハウの共有
3年間の調査結果をもとに、本種が発生するため池の条件と、その条件を創出するため池管理の提言をまとめたパンフレット(調査報告書概要版)を作成し、3/26にM池の管理者に説明して内容のすり合わせを行うとともに、2020年度の水管理について提案を行った。追って指摘された修正を加えてパンフレットを完成させた。管理マニュアルの内容であるが、本種の生活史の紹介を加え、一般の方に本種の必要な環境を説明するツールとした。

2. サイエンスカフェえひめ

実施日【タイトル】 ◆講師	お話しの概要（案内文）
第31回　5月28日 自然史資料をどうのこすか？ ―在野の私たちにできること ◆吉富博之さん （愛媛大学ミュージアム准教授）	標本、写真、フィールドノート、図鑑、本、雑誌、手紙‥‥博物学や自然史関係の研究・調査をしていると否応無しに様々な〝資料〟が手元に増えていきます。しかし、断捨離や「こんまりメソッド」がもてはやされる現在、自然史資料も例外ではありません。なにをどう残しどう処分するのかを考える必要があります。最近の実例をあげつつ、実践的な方法のいくつかを紹介します。
第32回　7月30日 四国で見ることのできる動物たちと環境保全を考える ◆野見山桂さん （愛媛大学沿岸環境科学研究センター　化学汚染・毒性解析部門　准教授）	動物達はマイペースに、人間の暮らしと関係なく暮らしているかのように映ります。でも、実際には、人間生活のごく身近な所で彼らは息づいており、環境汚染や環境破壊といった人間の身勝手な事情で、生活が脅かされる事も多々あります。今回はこれまで撮影してきた動物の写真をご紹介しながら、動物たちを取り囲む窮屈な現状についてお話します。
第33回　2月18日 身近で暮らすコケ ◆岩田和鷹さん （NPO法人西条自然学校）	身近でかならず暮らしているコケ。体が小さいため気づいてない方も多いと思います。コケと思っている生き物も実はコケではなかったり…。コケの暮らしや観察方法など、身近なコケを紹介します。

3. スーパーサイエンスカフェ ＆ 四国生物多様性会議

2019年度は、2010年にCOP10で定められた「生物多様性条約戦略計画2011－2020」（通称、愛知ターゲット）の最終盤にあたり、生物多様性の保全の現状について、情報共有を行い、地域の人々を巻き込んだ保全活動の展開を目指す必要があると考え、愛媛県「三浦保」愛基金環境保全・自然保護分野の補助金を得て事業を実施した。

県内外の地域に根差した長年の取り組みを事例発表いただくことによって、四国の生物多様性の魅力を再認識するとともに、効果的な保全活動や課題を共有することができた。当団体をはじめ、活動団体がそれぞれの立ち位置と進捗を確認し、活動を継続する力を得ることができたと考える。また、登壇者として招へいした生物多様性の保全を推進する専門家、活動団体、個人とつながりを得ることができた。

「四国の地質の成り立ち」
高橋治郎氏の報告

◆実施内容及び結果

(1)スーパーサイエンスカフェ「四国ってどんな島？」

第1回「四国の成り立ちを知ろう」

【日時】2019年10月26日（土）13:30～16:00
【場所】愛媛県立美術館2F研修室
【参加人数】38人
【内容】
①四国の地質の成り立ち～プレートテクトニクスからみた大地の変動～
　◆高橋治郎氏　（愛媛大学防災情報研究センター　客員教授・名誉教授）
②）四国西予バーチャルジオツアー～ジオの視点で地質・地形を楽しむ～
　◆高橋司氏　（四国西予ジオパーク推進協議会事務局長）
③地質がもたらす植生の特徴～風景を捉える～
　◆松井宏光氏　（愛媛植物研究会 会長、NPO法人森からつづく道 理事長）
④ディスカッション　地質の魅力とは！楽しみ方、知識の深め方を達人から提案

3. スーパーサイエンスカフェ & 四国生物多様性会議

第2回「四国山脈のケモノたち～哺乳類から森を考える～」
【日時】2019年11月17日（日）13：30～16：00
【場所】愛媛大学城北キャンパス　総合情報メディアセンター
【参加人数】45人
【内容】
①四国のツキノワグマ
◆安藤喬平氏（認定NPO法人四国自然史科学研究センター 研究員）
②四国のニホンカモシカ
◆金城芳典氏（認定NPO法人四国自然史科学研究センター センター長）
③四国の森にすむ小さな哺乳類
◆山本貴仁氏（NPO法人西条自然学校 理事長）
④ディスカッション
奥山の環境はどのような変遷をたどったか、
これから四国ではどんな森を目指すかなどについて意見交換

安藤喬平氏からの報告。四国はツキノワグマがすむ世界最小の島です

（2）四国生物多様性会議「調べ、守り、楽しみ、伝える　四国の自然」
【日時】2019年12月14日（土）13：30～16：30
【場所】松山市男女共同参画推進センターコムズ5階　大会議室
【参加人数】93人
【内容】
■基調講演「私たちのいのちと暮らしを支える生物多様性の恵み。これまでの10年とこれから」
◆道家哲平氏（日本自然保護協会 広報会員連携部長、国際自然保護連合日本委員会 副会長）

■事例発表　四国4県の生物多様性ホットスポットからの報告
①愛媛：面河渓谷～石鎚山
石鎚山と面河渓の生物多様性と保全～探勝から観光、観光からエコツーリズムへ～
◆矢野真志さん（面河山岳博物館学芸員）
②香川：瀬戸内海・里海
せとうちで考える　海ごみのこと、自然との暮らし
◆ 串田えみさん（NPO法人アーキペラゴ　観光地域づくりマネージャー）
③高知：室戸ジオパーク
ジオパーク活動と住民の意識の変化
◆高橋唯さん（室戸世界ジオパーク推進協議会　地質専門員）
④徳島：上勝町高丸山
上勝町高丸山での自然林再生と地域資源の活用
◆飯山直樹さん（かみかつ里山倶楽部事務局　徳島大学環境防災研究センター）

■意見交換「生物多様性の利活用と保全によって、地域の魅力を次の世代へ」

「石鎚山と面河渓の生物多様性と保全」
矢野真志氏からの報告

「ジオパーク活動と住民の意識の変化」
高橋唯氏からの報告

4. 道の駅から広がるエコツアー

道の駅の先の集落には、風土に根ざし、自然と共生する暮らしが展開されており、そのような集落が里山や森林の維持管理を担い、生物多様性の保全に寄与するとともに、自然からの恵みに感謝する祭りや食文化を継承している。

よってそのような集落に魅力を体感することによって、里地の役割を認識し、交流人口を増加させることを目的に、道の駅に集合して小型バスに乗り合わせて、生産現場や地域の見どころを訪ねるツアーを県内3箇所で企画し、伊予銀行の助成金を得て実施した。

【樹木とともにある小田の暮らし】

◆開催地：内子町小田
◆実施日：5月18日（土）
◆参加者：一般18名、地元関係者1名、当団体2名

内子バイオマス発電所の見学。地元の木材を活用したペレットを使った発電が始まっていました。

◆内容　集合：道の駅 小田の郷せせらぎ
【野村地区】
①中山間地に広がる野村地区をウォーキング
②地区の皆さんのお接待と交流
【内子町小田森林組合】
①森林資源の利活用についての説明
②内子バイオマス発電所等の見学
【道の駅せせらぎ】
①昼食　小田名物 たらいうどん定食
②せせらぎのユニークな商品解説
【巨樹との出合い・自然観察】
①広瀬神社（イチイガシ、ケヤキ2株）
②三島神社（乳出の大イチョウ、兄弟カヤ）

【三滝渓谷・大地の恵みを歩く、味わう】

◆開催地：西予市城川
◆実施日：7月21日（日）
◆参加者：一般17名、地元関係者3名、当団体3名

残念ながら雨天で三滝渓谷の散策は短縮。地質館にで、西予市に見られる黒瀬川構造帯などの解説を受けました。

◆内容　集合：道の駅 きなはい屋しろかわ
【三滝渓谷】
①次々と現れる滝と渕を散策
②ジオガイドによる地質や自然災害などの解説
【城川自然牧場】
ハムやウインナーの加工場の見学
【食堂ゆすかわ】
①昼食はトマトたっぷり、リコピンズランチ
②企業組合 遊子川ザ・リコピンズの活動紹介
【トマトの収穫体験】
木成りの完熟トマトを丸かじり！お持ち帰りも
【道の駅きなはい屋しろかわ】
名物商品のご紹介

【風かおるふるさと　宇和島市御槇の旅】

◆開催地：宇和島市御牧
◆実施日：8月10日（土）
◆参加者：一般22名、地元関係者1名、当団体3名

ツアー最後の目的地、山本牧場。牧場における循環型の暮らしを進めるための取組についても紹介をいただきました。

◆内容　集合：津島やすらぎの里
【源池公園～御槇散策】
①サギソウ観察
②せんまくめぐり
【みまきガーデン】
お惣菜ランチバイキング！
【御槇米の水源地】
①御槇米をはぐくむ清流の水源を訪ねます
②涼やか～水辺の自然観察
【山本牧場】（左写真）
①まきばでほっこり！ソフトクリームも堪能
②コンポストや堆肥について知ろう

5.　親水都市アクアトピアわくわく水エコツアー　えひめさんさん物語

西条市の山、文化、歴史、産業、自然に深く踏み込んで行う自然・文化観察プログラムを、東予地域で行われる「えひめさんさん物語」の一環として企画。アクアトピア都市・西条市をフィールドに、水つながりで専門家が地域資源を掘り下げ、新しい切り口で解説を加えつつ、だれでも気軽に参加できるツアーとして開催した。

【スプリングエフェメラル・北国の春ツアー】

◆開催地：西条市保井野堂が森登山道
◆実施日：4月20日（土）
◆参加者：一般30人、当団体2人
◆内容：北国の春のような美しい雑木の下で春の花を観察するフラワートレッキングを実施した。

【天空の水・廃墟・廃屋・廃鉱ツアー】

◆開催地：西条市丹原町鞍瀬ヌタヤブ
◆実施日：4月27日（土）
◆参加者：一般40人、当団体2人
◆内容：昔の人が一つひとつ川の石を積み上げてつくった道を春の花を楽しみながら散策。たくさんの滝に出合い、シダの森も観察した。

【これぞうちぬき・奇跡の清流】

◆開催地：西条市禎瑞
◆実施日：6月9日（日）
◆参加者：一般39人、当団体3人
◆内容：四国でここだけにしかない水草などを解説。干潟のおもしろい生き物も観察し、嘉母神社うちぬきの水も味わった。

【万葉の森・御井の里ツアー】

◆開催地：西条市楠・河原津
◆実施日：8月24日（土）
◆参加者：一般29人、当団体1人
◆内容：古代山城の城跡が残る永納山、桜井湿地などを巡るツアー。今も残る美しい湧水も楽しんだ。

【街の真ん中にある湧水希少生物大群落ツアー】

◆開催地：西条市三津屋・周布
◆実施日：9月14日（土）
◆参加者：一般12人、当団体2人
◆内容：旧東予市も湧水が豊富で産業が栄えた場所。産業と文化を巡った。

【吉岡水草のパラダイス観察会】

◆開催地：西条市吉岡地区
◆実施日：10月27日（日）
◆参加者：一般35人、当団体2人
◆内容：東予地区で最も里山の風情が残る西条市吉岡地区で水草と里山の植物を堪能した。

6. 風早活性化協議会事業への参加・協力

北条地域のまちづくりを推進している風早活性化協議会・環境整備部会に加入し、地元の方々とともに自然をはじめとする地域資源を活用する活動を展開した。オオキトンボをはじめ、北条地域の里地の生物多様性を保全するためには、地元の方々との協働が欠かせないため、顔の見える関係づくりに努めている。

【立岩川プレイパーク】

◆開催地：松山市立岩川水辺公園
◆実施日：10月6日（日）
◆参加者約50名、当団体：松井
◆内容：NPO法人みんなダイスキ松山冒険遊び場が主催する親子対象の川遊びにおいて、生き物の解説を行った。

【高縄山散策】

◆開催地：松山市河野公民館～高縄山
◆実施日：10月27日（日）
◆参加者：約40名、当団体：松井、黒河
◆内容：高縄山遊歩道の散策。紅葉は始まったばかりであったが、高縄寺の祭りにも参加し、秋の山の植物観察とトレッキングを楽しんだ。

【風早レトロまつり】

◆開催地：松山市河野別府公園
◆実施日：11月4日（月・祝）
◆参加者：約6000名、当団体：松井、豊田、黒河
◆内容：自然素材を使ったオブジェ作り、オオキトンボの生活史や動画の展示などを実施。

【つばきの実 de ストラップ＆ねずみ！】

◆開催地：松山市北条鹿島
◆実施日：2月29日（日）
◆参加者：約20名、当団体：豊田、松井
◆内容：市の花椿にちなんだクラフト作りのイベントを実施して欲しいとの要望を受け、椿の実の皮を使って干支のネズミ、実を彩色したストラップなどの工作を企画、親子を対象に実施した。

「つばきの実 de ストラップ＆ねずみ！」の様子。
クラフト教室のレパートリーが広がっています。

7. 地域循環共生圏事業

地域循環共生圏とは

・2018年4月に閣議決定された「第5次環境基本計画」で打ち出された概念。

・持続可能な社会を構築するために、地域ごとに資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域当と共生・対流し、より広域的なネットワーク（自然のつながり（森・里・川・海の関連）や経済的なつながり（人、資金等））を構築することで、新たなバリューチェーンを生み出し、地域資源を補完し、支え合いながら農山漁村も都市も活かすことを目的とする。

・具体的には、森・里・川・海の恵みを生かした生業づくり、環境に配慮した地域産品の市場の創出、自然資源を活かした観光による交流拡大、地産地消型再生可能エネルギーの創出、地域創造ファンドの構築　などを目指す。

2019年度の取組

地域循環共生圏の実現に向け、2020年度に四国におけるプラットフォーム設立を目指すための情報収集、関係作りが進められた。
当団体は県内におけるヒアリングおよびフォーラムの開催運営等の業務を受託して実施した。

【ヒアリングの実施】
実施期間：2019年8月～10月
①行政：愛媛県森林整備課
②企業：（株）武田林業
③学識経験者：愛大社会共創学部 笠松浩樹氏
④NPO等：四国西予ジオパーク推進協議会

【フォーラム等の運営・参加】
①8/29　第1回地域ブロック会議設立準備会（高松市）
②11/20　持続可能な商品開発のための研修（高知市）
③12/15　地域循環共生圏構築にむけた地域フォーラム（松山市）
④1/29　第2回地域ブロック会議設立準備会（徳島市）

Ⅲ. 組織運営

1. 意思決定

事業の企画申請にあたっては、それぞれの事業に関係する会員が必要に応じて打ち合わせを行った。

「オオキトンボの里づくりプロジェクト」においては、月に2回のペースで検討会を開催し、調査計画の策定、調査の打合せ、調査結果の共有・進捗確認を行いながら、事業を推進した。また、愛媛県生物多様性センターの協力を得て、専門的な知見のもと、事業に取り組むことができた。

観察会の企画にあたり、アイディアや情報、マンパワーが必要な場面では、都度会員の協力を得ることができた。

2. 情報発信

【HPによる発信】

HPにおいて、サイエンスカフェえひめ、エコツアーなどの告知を行った。また、もりみちブログ（人と自然との関わりやイベント実施報告）、生きものごよみ（生きものの活動を紹介することによって、生態の面白さを知り、季節の変化を感じてもらう内容）の発信を活発に行った。

本年度のもりみちブログの更新は23回（月約2回）、生きものごよみの更新は244回（月約20回）を数えた。自然に対する興味を高めてもらうことを願い、引き続き生きものの魅力の発信に注力していく。また、閲覧者を増やす工夫をしていきたい。

更新回数

	2019年4/1～6/9（任意団体）	6/10～2020年3/31（NPO法人）
もりみちブログ	3	20
生きものごよみ	62	182
オオキチくん通信	1	8
サイエンスカフェ	1	4
イベント、その他	1	5

【チラシの作成】

サイエンスカフェえひめ、エコツアーの告知には、チラシを作成し、まつやまNPOサポートセンターや愛媛県生涯学習センターなどに設置しているが、集客力には課題を感じており、SNSの活用も検討する必要があると考えられる。

【オオキチくん通信の発行】

「オオキトンボの里づくりプロジェクト」の一環として、2019年1＆2月号を創刊号として継続発行している。A4両面カラーで年10回、松山市北条地域の7小学校（3年生以上全児童）に配布、市内の公民館・公共施設に設置しており、一定の発信力を有する紙媒体である。

本年度は、2019年4月号～2020年3月号までの10号を制作、配布した。オオキトンボをはじめ、身近な生き物の生活史を伝える内容になっているので、生き物や自然環境に関心を持ってもらうきっかけとなることが期待できる。また、HPに発行の都度掲載し、バックナンバーをダウンロードして見てもらうことができるようにしている。